

# 平成22年度 学校評価

1 実施日 平成23年1月15日～3月1日

2 評価者

① 自己評価

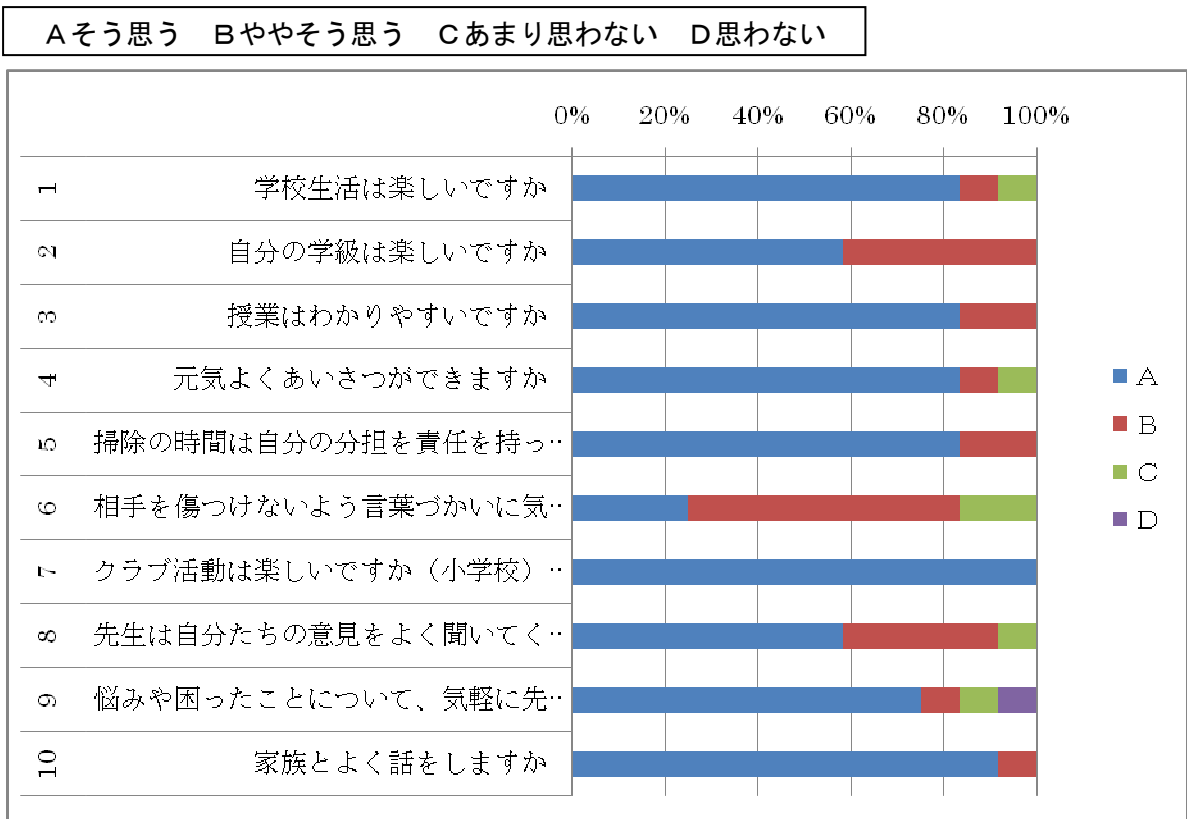
- ・ 教職員10名（回収率100%）
- ・ 児童＜3～6年生＞12名（回収率100%）
- ・ 保護者15名（回収率100%）

② 学校関係者評価

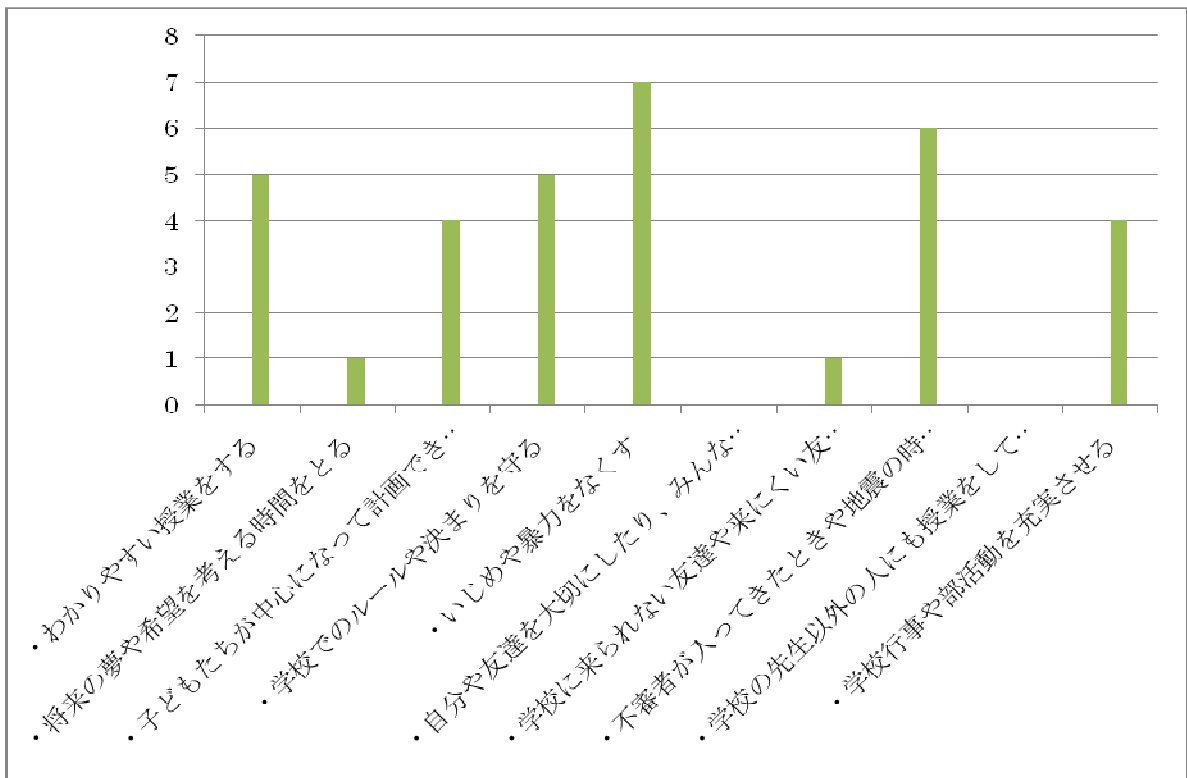
- ・ 開かれた学校づくり委員7名（回収率100%）

大豊町立大田口小学校

## <児童評価結果：自己評価>

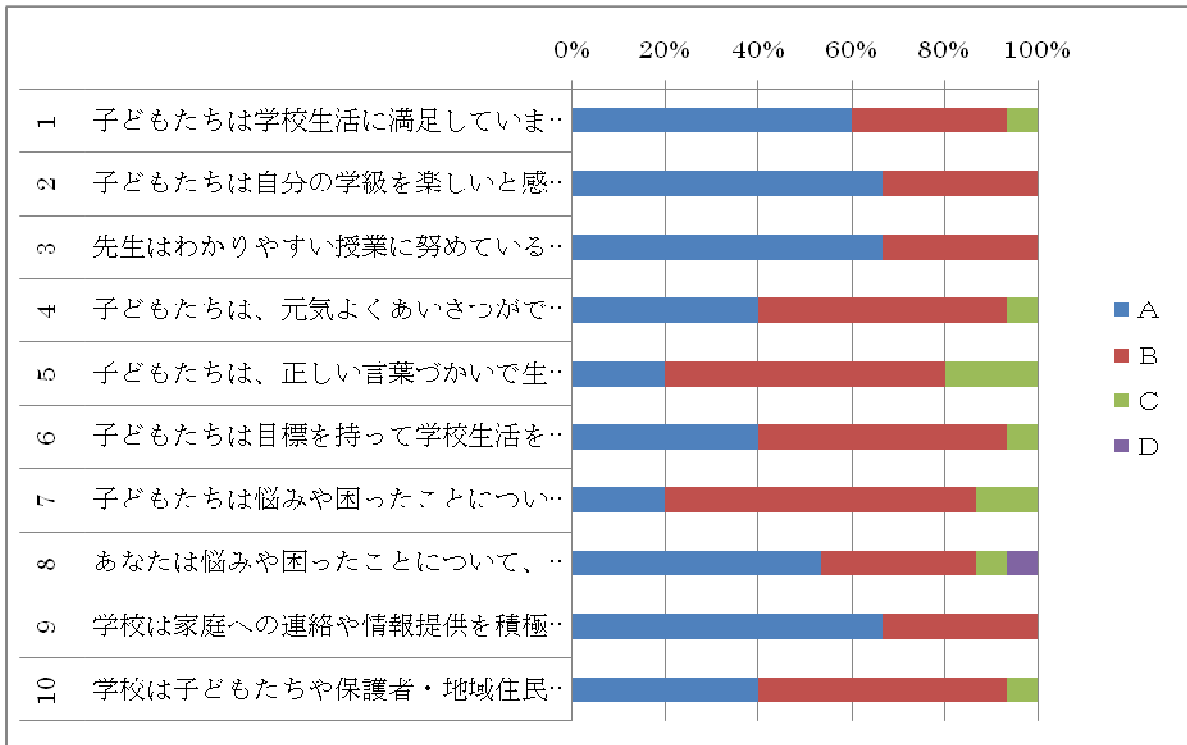


## これから学校に力を入れてほしいこと（項目内から3つ選択）

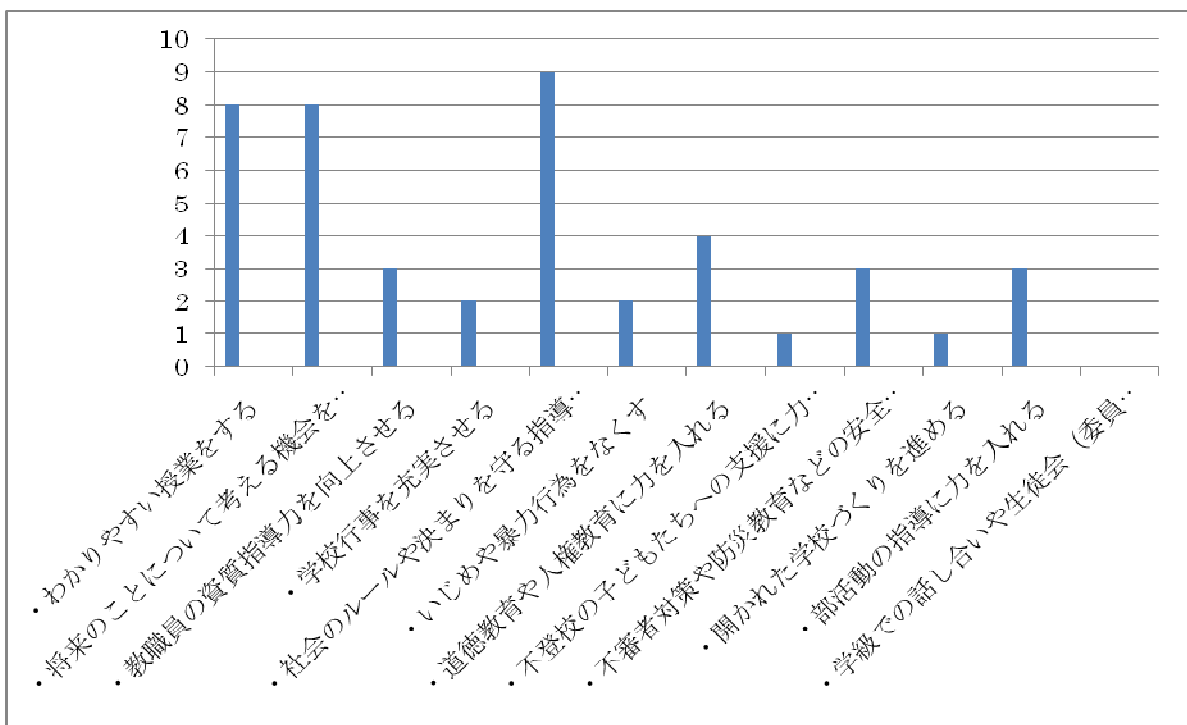


## <保護者評価結果：自己評価>

A そう思う B ややそう思う C あまり思わない D 思わない

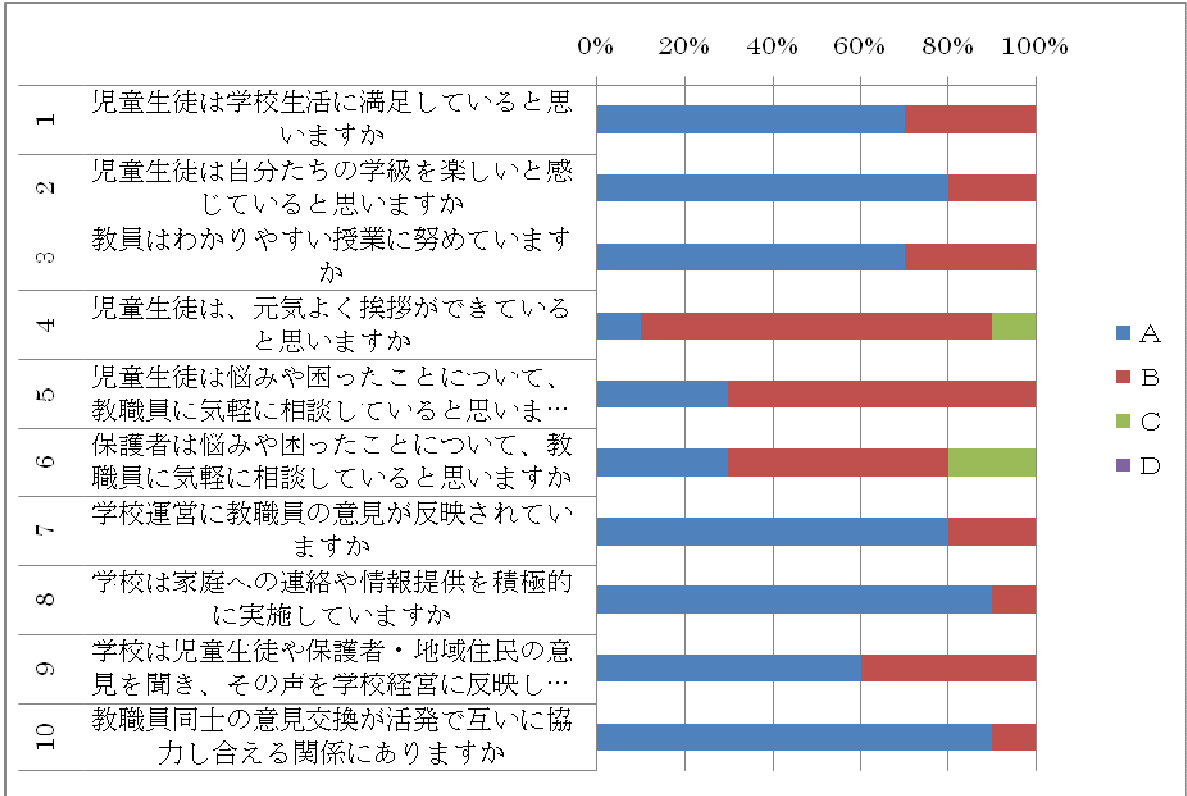


## これから学校に力を入れてほしいこと（項目内から3つ選択）

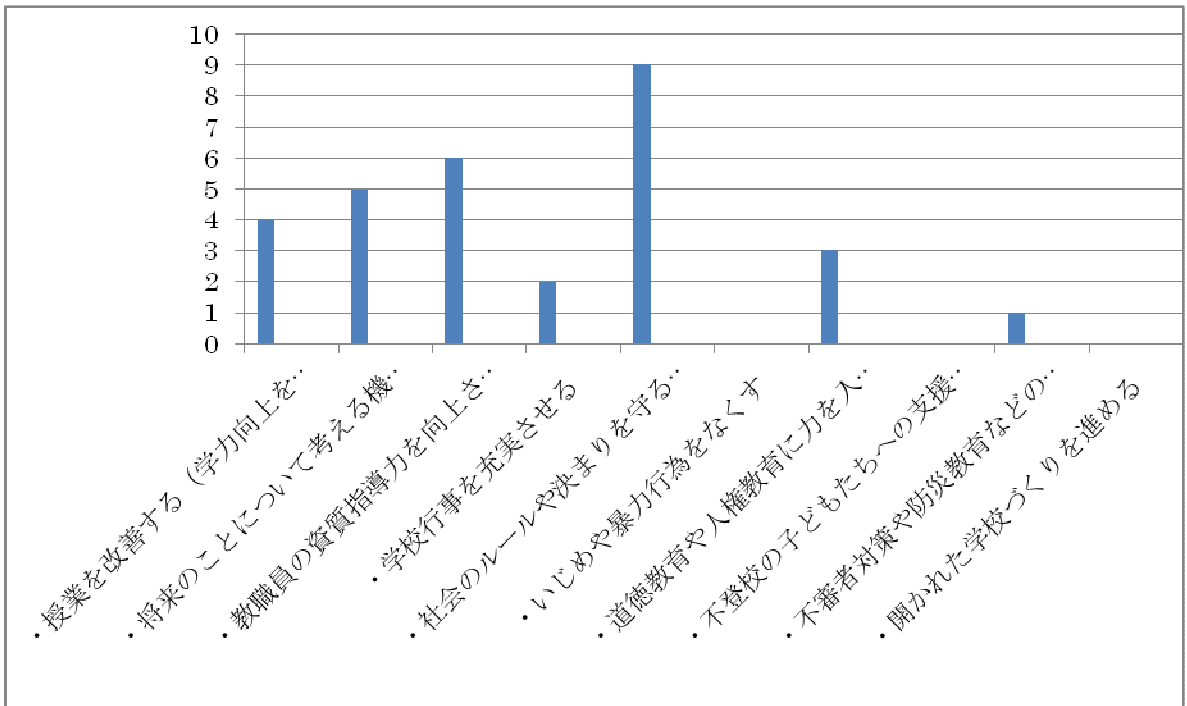


## <教職員評価結果：自己評価>

A そう思う B ややそう思う C あまり思わない D 思わない



これから学校に力を入れてほしいこと（項目内から3つ選択）



## ＜自己評価の結果と考察＞

- ① 学校満足度【3者評価】
  - ・ 児童評価、保護者評価、教職員評価（以下、3者という）とも、「Aのそう思う」と「Bのややそう思う」の肯定的評価が95%以上である。
  - ・ 学校満足度調査項目で「Cのあまり思わない」と回答した児童も、学級満足度はそう思うと回答しており、学校生活や友達関係はおおむね満足していると考察できる。
- ② 学級満足度【3者評価】
  - ・ 3者評価全ての回答がA或いはBである。
  - ・ 児童一人一人を大切にした学級経営の結果が表れていると考察できる。
- ③ 授業満足度（クラブ活動を含む）【3者評価】
  - ・ この項目でも、3者評価すべてで、A或いはBと回答しており、児童に分かりやすい授業が展開できていると考察できる。
  - ・ また、本年度県の指定を受けて取り組んできた授業改善への教職員の努力が、児童や保護者に伝わったと考察できる。
- ④ 社会性の育成（挨拶）【3者評価】
  - ・ 元気よく挨拶できているかについては、A或いはBの回答が昨年度を上回る数値結果となっている。職員室での早朝の挨拶や下校時の挨拶等、定着しつつあると考察できる。
  - ・ 今後も「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」といった心の通った言葉を使えるように、指導を継続していく。
- ⑤ 社会性の育成（掃除）【児童評価】
  - ・ 全員の児童がまじめに掃除に取り組んでいる結果が出されている。
  - ・ 全教職員が、児童と共に清掃活動に取り組んできた成果が、この結果に反映されているのではないかと。今後も取組を継続していく。
- ⑥ 社会性の育成（言葉づかい）【児童・保護者評価】
  - ・ 児童評価及び保護者評価ともに、Cと答えた回答者が2割程度いるものの、昨年度の結果と比較すると改善の兆しが見える。
  - ・ 次年度以降も道徳教育や人権教育を中核に据え、家庭や地域と連携して継続的に取り組む課題の一つである。
- ⑦ コミュニケーション関係（児童と教職員）【3者評価】
  - ・ A或いはBと回答した割合が80%前後であり、悩みや相談事を一定話しているし、教職員も聞き取ることができていると考察できるが、昨年度より、若干数値が下がっている。
  - ・ 養護教諭などが中心となり対応するシステムを、一層充実していくことが大切である。
- ⑧ コミュニケーション関係（保護者と教職員）【保護者・教職員評価】
  - ・ 保護者から学校への相談ごとについては、保護者の約15%がC或いはDの否定的回答をしている。また、教職員もCと回答している数値が20%を示しており、改善を

要する。言いたいことが言えない環境なのか、教職員が「聞いているつもり」なのかを一層深く分析する必要がある。

- ・ 学校としての垣根はかなり低くしていると考えているが、まだまだ開かれた学校づくりを推進していかなければならない。

⑨ コミュニケーション関係（児童と保護者）【児童評価】

- ・ 児童の家庭でのコミュニケーション状況は、全員が家庭で家族とよく話をすると回答している。
- ・ 学校での出来事や友達関係など、日々の出来事を家庭で話す時間が確保されていると考察できる。

⑩ キャリア形成【保護者評価】

- ・ 子どもたちが目標を持って学校生活を送ることができているかという質問に対しては、保護者の約90%が肯定的な回答をしている。
- ・ 日々の目標や中長期的な目標を一人一人の児童がもてるように、目標の明確化とキャリア教育の充実を一層図っていくことが大切である。

⑪ 情報発信【保護者・教職員評価】

- ・ 教職員全員がAと回答し保護者も100%が肯定的評価をしている。
- ・ 各学級の通信や保健だより、学校通信である「大田口の輪」、ホームページの更新など、頻繁に学校の取組を発信してはいることが肯定的評価の原因と考えられる。
- ・ 今後も、良かったことや改善が必要なことをタイミングよく情報発信し、また、返信をもらい、情報が一方通行にならないように心がけていくことが大事であろう。

⑫ 学校経営（保護者等の声の反映）【保護者・教職員】

- ・ 保護者や地域の意見を学校経営に反映する問に対しては、教職員は100%肯定的に評価をしているが、保護者は約10%がCと答えている。
- ・ どういう点で不十分なのかを明確にし、次年度以降に改善していく必要がある。

⑬ 学校経営参画と同僚性【教職員評価】

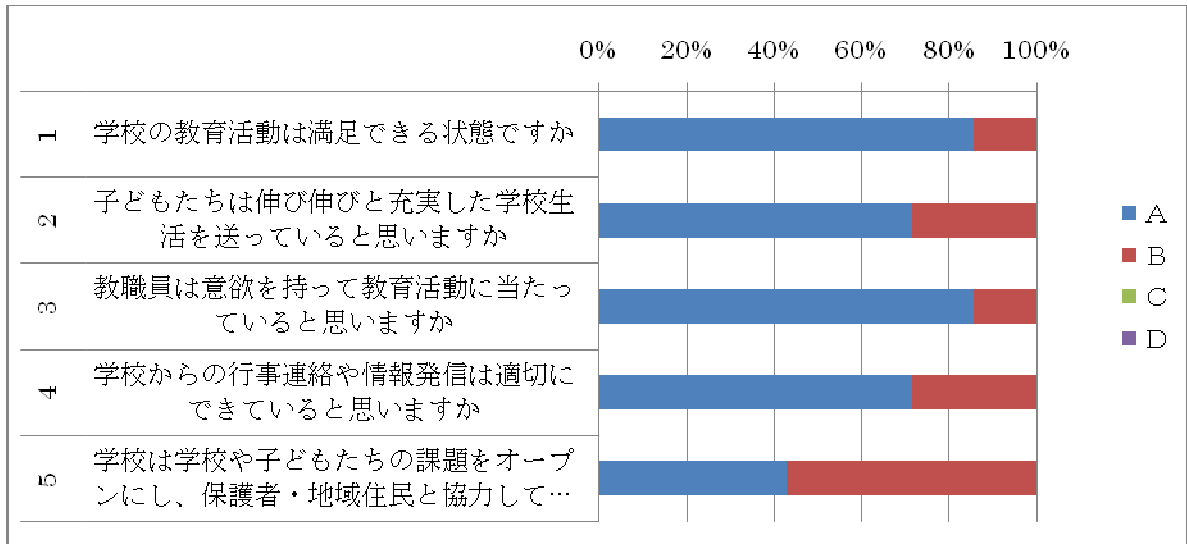
- ・ 教職員の学校経営参画と同僚性は、全員が肯定的な評価をしている。特に同僚性については、ほぼ全員がAと回答しており、職員満足度の高い職場が形成されている。
- ・ 働きやすく何でも意見が言い合える職場環境が整いつつあるので、そこで生まれるパワーを児童の生きる力の育成に結び付けていく取組を継続していく。

⑭ その他（自由記述欄）

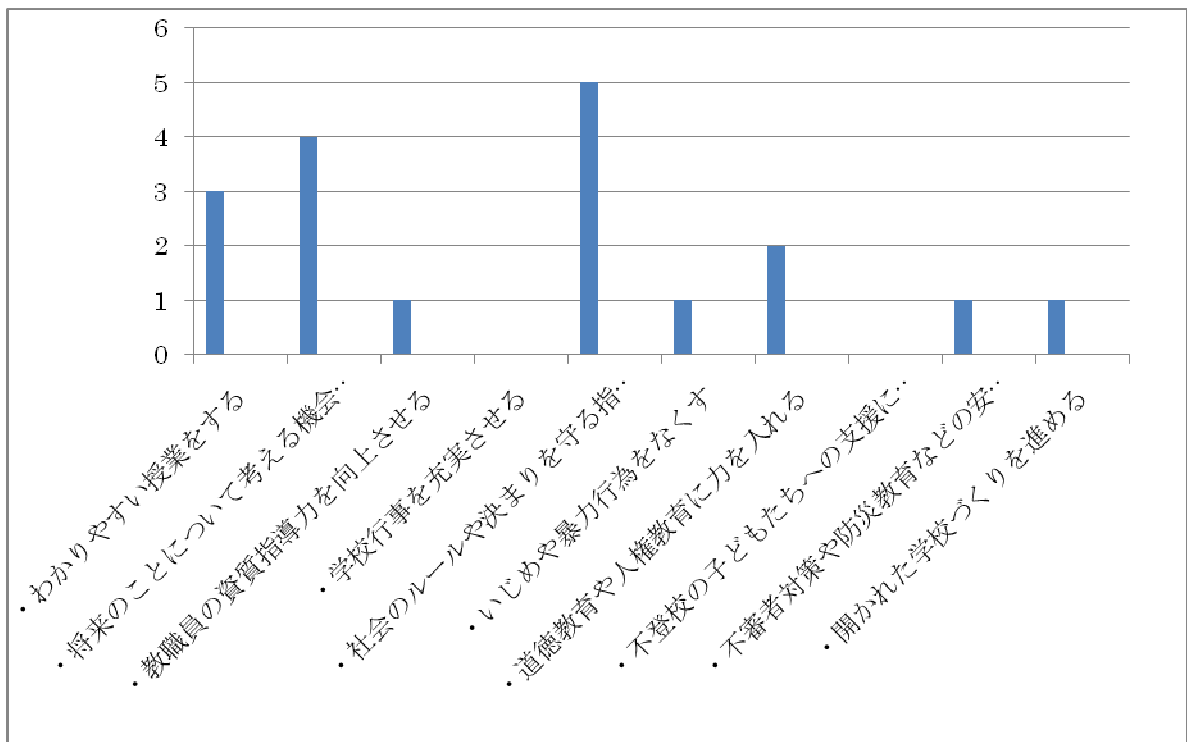
- ・ 故郷を心に刻む教育を大切にさせていただいていると思う。
- ・ 子どもは地域の宝なので、社会全体で子どもを育てるように、より一層力を注ぎたい。
- ・ 保護者として出来る限りの協力をさせていただく。
- ・ 心の教育を第一に考えていただいていると思うので、今後も継続していただきたい。

## <地域の方の評価結果：学校関係者評価>

A と思う B ややと思う C あまり思わない D 思わない



これから学校に力を入れてほしいこと（項目内から3つ選択）



## <学校関係者評価の結果と考察>

### ① 学校満足度

- ・ 地域における学校満足度は、A評価約 90%、B評価約 10%と、全てが肯定的な評価による回答である。また、A評価の割合が昨年度より 10%伸びている。
- ・ 児童の学校や地域での様子や学校からの情報発信により、地域の中で学校の存在が認められ地域に愛される学校作りが進んでいると考察できる。

### ② 児童の様子

- ・ A評価が約 75%、B評価が約 25%という回答であり、児童の学校生活の様子や地域での様子についても、高い評価結果が出されているが、A評価が昨年度より 10 パーセント減少している。
- ・ 学校での活動の様子や地域の方を招いての取組などの工夫改善が必要な時期が来ているのではないかと考えられる。

### ③ 教職員の取組態度

- ・ A評価が約 85%、B評価が約 15%と、この質問項目でも、全ての方が肯定的評価を行っているし、A評価の割合が大きく伸びている。
- ・ 本年度公開した研究発表会や特色ある学校づくりへの取組、地域が主催するイベント等への参加などが評価結果に反映されていると考察できる。

### ④ 情報発信

- ・ A評価が約 70%、B評価が約 30%という回答であり、学校通信（大田口の輪）や各種通信、毎日のホームページの更新などにより、学校の様子が地域にも伝わっていると考察できるが、昨年度よりA評価の割合が下がっているため、より工夫した情報発信の方法を考えて行きたい。
- ・ 学校の課題のオープン化や協働しての解決については、昨年度 15%あったC評価が無くなった。今後も、個人情報配慮しながら学校のマイナス課題をオープンにし、学校の課題解決を地域全体に支援していただきながら進めて行きたい。

## <学校への取組要望とまとめ>

自己評価（児童、保護者、教職員）と学校関係者評価で、今後取り組んでほしいものとして共通している項目は、社会のルールやきまりを守ることへの取組である。このことは、現在社会における規範意識の低下による事件や事故の多発を鑑みてのことであろう。

次年度も、本年度同様に挨拶活動や清掃活動、ボランティア（福祉）活動などの体験学習を通じて、児童の豊かな心の育成に取り組んでいきたい。

次に共通する項目は、将来のことを考える教育の充実である。キャリア教育の推進に力を入れ、大豊町の将来を担う児童の育成に努めて行きたい。

また、こういった取組を実りあるものにするため、PDCAサイクルをしっかりと回し、取組の成果と課題を保護者や地域住民に発信し、学校の説明責任を果たして行きたい。